

2024/3/5 (火)

朝の礼拝

聖書 マルコによる福音書 14章 3-9節 (新約聖書90頁)

イエスがベタニアで重い皮膚病の人シモンの家において、食事の席に着いておられたとき、一人の女が、純粹で非常に高価なナルドの香油の入った石膏の壺を持って来て、それを壊し、香油をイエスの頭に注ぎかけた。そこにいた人の何人かが、憤慨して互いに言った。「なぜ、こんなに香油を無駄遣いしたのか。この香油は三百デナリオン以上に売って、貧しい人々に施すことができたのに。」そして、彼女を厳しくとがめた。イエスは言われた。「するまめにさせておきなさい。なぜ、この人を困らせるのか。わたしに良いことをしてくれたのだ。貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるから、したいときに良いことをしてやれる。しかし、わたしはいつも一緒にいるわけではない。この人はできるかぎりのことをした。つまり、前もってわたしの体に香油を注ぎ、埋葬の準備をしてくれた。はっきり言うておく。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」

共に十字架を仰いで

ベタニアとは村の名前です。そこにマリアという女性がいました。イエスは重い皮膚病のシモンの家で会食をしていました。重い皮膚病は原因不明で、天刑罰とも呼ばれ、家族でも近づくことさえ許されず不治の病だと言われていました。イエスは彼らと食事を共にしました。そこへマリアが無言で入ってきたのです。

その頃、家の主人はまず迎えた客の足の泥やほこりを洗い、裕福な家では高価な香油を一滴足に塗り歓迎しました。ところがマリアは石膏の壺（これも高価）を割って香油を頭から注ぎかけたのです。彼女の行いを咎めた人たちの言葉から三百デナリオン以上とありますから、今の日本円なら約一千万円ほどです。

マリアはイエスに憧れていたのでしょうか。かなえて欲しい願いがあったのでしょうか。それとも何か重荷を抱え、赦しを請うていたのでしょうか。しかしイエスは、マリアが自分の埋葬の準備をしていたのだと気づいていました。香油は亡くなった人の身体の腐敗防止のために塗られていたからです。

もうすでにイエスは弟子たちに十字架に架けられ殺される、そして三日後に甦ると伝えていました。弟子たちはそれを否定し、イエスを裏切り、逃げていきましたが、最後までイエスに従ったのは女性たちでした。マリアはそのひとりです。まだ復活の事実を知らずに信じ、ただ十字架の道を共に歩んだマリアでした。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、わたしたちにはどんな慰めも心に響かない、ただ耐えるしかない寂しさ、悲しみに時が止まったように苦しむ時があります。しかしあなたは黙って、ただマリアの思いを受けとめられました。どうか共に重荷を負う者同士が、誰もが赦され、生かされていることを喜び、感謝できる幸いを与えてください。明日から午前中授業となります。この一年の学びをふり返り、あなたに選ばれ、愛され、導かれている喜びと感謝を覚え、英和生としての誇りと自信をさらに深め、互いに励まし、大切にして愛し合う道を歩ませてください。どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン